

# 筑波大学新聞

第326号

編集責任 筑波大学新聞 編集代表 福原直樹  
TEL: 029(853)2040-6699  
E-mail: shinbun@un.tsukuba.ac.jp  
月刊

発行所 筑波大学  
茨城県つくば市 天王台1-1-1

## 防災科研が街灯設置

### 3月下旬に24基 学生、職員の声受け

筑波大学のすぐ北にある防災科学技術研究所(つくば市天王台3丁目)が3月下旬、敷地周辺に24基の街灯を設置することがわかった。市内では昨年3月、筑波技術大学(つくば市春日4丁目)付近に市が街灯を13基を設置しており、筑波大学周辺の夜暗い道に防犯などの目的で街灯を設置する動きが広がっている。同研究所の周辺については職員のほか、付近を通行する筑波大生から夜間の暗さに不安の声が上がっていた。(森脇慎二 社会学類3年、新田萌夏 同3年)



街灯は東大通り沿いに20基と、そこから防災科学技術研究所の正門までの道に4基を約25メートル間隔で設置。設置や維持管理費は同研究所が全額負担する。



つくばに街灯を

暗い道に不安を抱えていたという。同研究所付近を通りかかった岸元穂菜美さん(芸専3年)は夜、自転車で乗ってアルバイト先に向かう最中、地面の凹凸に気づかず転びかけたことがあったという。「街灯がなく、怖い思いをしたことが少なからずある。街灯が設置されるのはうれしい」と話す。

また遠藤祐哉さん(数学3年)は「前方から人が歩いてきても気づかないほど暗いので街灯が設置されるのわがやだ」と話す。

## ジャカルタ爆破テロ

### 「危ないから伏せる」 本紙記者が見た現場

【ジャカルタで平嶋健人(社会学類4年、写真)】ぼろぼろになった建物の外壁。その前に残る自爆テロ犯の血のり。さびた銃撃戦を警戒し、警官は「危ないから伏せろ」と叫んだ……。1月14日朝、ジャカルタ。爆破テロの現場を見たのは、テロの残虐非道性だった。現場の緊迫した状況を報告する。(平嶋記者は現在、現地の会社でインターンシップ中)

事件は同日午前10時45分、船などの集まるジャカルタの商業施設や各国大使館中心部で発生。スターバックス

クス付近や、その前の交差点内にある警察官詰所まで爆発が起きたうえ、武装集団と警察が撃ち合いとなり、武装集団4人、一般人4人が死亡、24人が重軽傷を負った。現地の報道によると、イスラム過激派組織「イスラム国」(IS)が関与した可能性が高いという。

事件直後、「テロ」と直感し好奇心からカメラをふいに大きな音がした。持って社を飛び出した。現場付近の交差点は車のビルドアップで、先を4、5回、爆発があったらしく、「銃撃戦で何人か死んだ。スマホを片手に人々が互いに情報を交換しあっている。カメラのファインダー越しに見える表情は皆こわ張っており、恐怖からか涙ぐむ女性もいた。



ジャカルタ 見聞録

警察が近くのビルのガラスを割り、内部に入る音だった。警察がビル内に逃した容疑者がいないか捜索している、という。その時カメラのメモリーカードの予備を地面に落ちてしまった。慌てて拾ったが、現場にいた記者たちについていくと、ビルの陰から爆発現場が見渡せる場所に出た。「危ないから伏せろ」と叫ぶ警官の叫びが聞こえてきた。警官が叫ぶ。銃撃戦がまた始まる可能性があるから、警察車両の後でしゃがんで待機しろと叫ぶのだ。車の後ろから少しだけ頭を上げ、写真



爆破された警察官詰所。武装した警察官が多数おり、物々しい雰囲気だった(1月14日、ジャカルタで)

その後、安全が確保され、現場が公開された。爆発があった警察官詰所の外壁は吹き飛び、内部のレンガが見えるほどボロボロになっていた。その前には自爆テロ犯の血のりがまだ残っていた。

テロの際、現場にたまたま居合わせたという日本人男性が、最初の爆発直後に撮った写真を見せてくれた。その中には腹部を撃たれ、苦しもうとする被害者の白人男性の写真もあった。「銃を持ったテロリストと数分の距離にいた」と言い、「死んでもおかしな現場で死んでいく現場に居ることができな」と話していた。

コンテストには朝日新聞社賞、連載賞のほか記事賞があり、同賞には大学近くで進む整備事業を報じた一橋新聞の記事が選ばれた。筑波大生の自乗車の交通違反に関する本紙の記事(第324号、昨年11月)は同賞2位だった。朝日新聞社賞は連載、記事賞の評価を

の取材、編集を担当して

春日4丁目、2013年にわいせつ事件が多発して



つぐば歳時記 寒空の下、筑波山では暖冬の影響で、例年より約半月早く梅が開花した。2月20日から開催される筑波山梅まつりの頃には満開の予想。

その年の最も優秀な大学新聞を決める「第5回大学新聞コンテスト」(関東学生新聞連盟・東京5大新聞連盟主催、朝日新聞社・日刊スポーツ新聞社特別後援)の一般新聞部門で、本紙編集部が最優秀賞に当

る「朝日新聞社賞」を一橋新聞部と同時受賞した。また、本紙のキャンペーン「つくばに街灯を」も連載賞に選ばれ、表彰式が昨年12月18日に朝日新聞東京本社ビル(東京都中央区)で行われた。

コンテストには朝日新聞社賞、連載賞のほか記事賞があり、同賞には大学近くで進む整備事業を報じた一橋新聞の記事が選ばれた。筑波大生の自乗車の交通違反に関する本紙の記事(第324号、昨年11月)は同賞2位だった。朝日新聞社賞は連載、記事賞の評価を

紙面から	
大学と軍事研究	米軍から研究資金提供 2
絶対音感 ジャズスクリスマスコンサート	5
体操 全日本ライト選手権 松浦4連覇	8
男子バレー 全日本インカレ 準優勝	9
大学センター試験	筑波大教員の文章も 11
都市計測実験室	地方創生担当大臣賞 10

本紙の取材に評価	
特集	6,7
平成27年度 退職教員インタビュー	

## 筑波お話し

小学生の頃、「シャーロック・ホームズ」(ドイル)を耽読した。行動力、洞察力に富んだ名探偵が隠れた事実を見いだし、難事件を解決する。その姿に憧れたが、出不精で人見知りの自分には無縁の世界とも感じていた。そんな自分が大学入学後、本紙記者として活動を始めた。何もかも手探りだったが、「誰もか経験から学ぶ」という名探偵の言葉を信じた。取材先のアポ取りに苦労したり、締め切り直前まで取材をし、部員に叱られたり。その一方で、常総市の水害では真っ先に現場に駆けつけた。気づけば記者活動に夢中になっていた。本紙に朗報が届いた。大学新聞コンテストでの受賞と、つぐばに街灯を「キャンペーン」は、筑波大周辺の暗い道でのわいせつ事件多発を機に2013年11月(310号)に開始。地元自治会の取り組みや被害者生の声などを掲載したが、▽事件被害者や警察、市役所など各所に取材した▽一連の報道を受け、実際につぐば市が街灯を設置したり、協議会を設立した……などが評価された。

## 本紙に朝日新聞社賞

### 大学新聞コンテスト

その年の最も優秀な大学新聞を決める「第5回大学新聞コンテスト」(関東学生新聞連盟・東京5大新聞連盟主催、朝日新聞社・日刊スポーツ新聞社特別後援)の一般新聞部門で、本紙編集部が最優秀賞に当

る「朝日新聞社賞」を一橋新聞部と同時受賞した。また、本紙のキャンペーン「つくばに街灯を」も連載賞に選ばれ、表彰式が昨年12月18日に朝日新聞東京本社ビル(東京都中央区)で行われた。

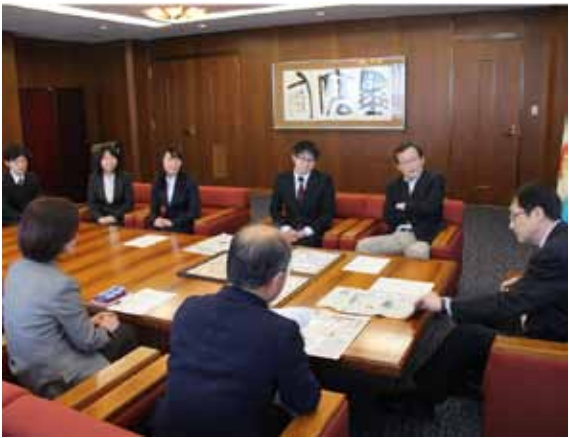
コンテストには朝日新聞社賞、連載賞のほか記事賞があり、同賞には大学近くで進む整備事業を報じた一橋新聞の記事が選ばれた。筑波大生の自乗車の交通違反に関する本紙の記事(第324号、昨年11月)は同賞2位だった。朝日新聞社賞は連載、記事賞の評価を

の取材、編集を担当して

の取材、編集を担当して

の取材、編集を担当して

の取材、編集を担当して



永田学長(右)と話す本紙記者(1月20日、本部棟4階の学長応接室で) = 広報室提供

# 本紙が学長を表敬訪問

## 朝日新聞社賞など受け

本紙記者は1月20日、「第5回大学新聞コンテスト」の一般新聞部門での最優秀賞の受賞とついで、中央署からの感謝状の贈呈を受け、筑波大学の永田恭介学長を表敬訪問した。

同紙は筑波大周辺で犯罪や交通違反が多発している点に着目。コンテストでは、本紙が筑波大周辺への街灯設置を目指し、2013年から続けているキャンペーン「つばはに街灯を」が評価された。また、つくば中央署からは昨年11月

に、本紙が筑波大周辺の自転車の交通違反の実態を調べ、交通安全運動に貢献した点が評価された。永田学長は「学内外の問題に対し、今後も提案をするような報道を行ってほしい」と語った。(一面に) ◆本紙編集長のコメント 今回の表敬訪問で、学長から「貰ったことはもう過去のこと。次に何をやるかを常に考え続けてほしい」との言葉をいただきました。読者に少しでも多くの新しい情報と視点を届けることが本紙の最大の使命だと考えています。学長のお言葉の通り、常に「次」を見据えた活動を続けていきます。(田中開)

# 常陽新聞に本紙記事 2月から隔週で



1月21日付の常陽新聞。筑波大学附属図書館の公式キャラクターなどについて取り上げている

常陽新聞は、2014年2月1日に創刊された日刊紙。日曜休刊で、発行部数は約4000部。主に30〜50代の子育て世代を中心に読まれている。同紙は電子版に力を入れており、購読者は無料で電子版を利用できるほか、電子版のみ「筑波大生は大学時代の経験を深めるために、地域にもっと関わらなければならない」とも話している。(大西美雨)

本紙記者が 特約記者に 今年から本紙の新田明夏(社会学類3年)と添島香苗(生物学類3年)の両記者が常陽新聞の特約記者として活動することが決まった。新田記者はこれまで大学

の授業改善をテーマにした連載「漂流する教室」スマホと授業」などを行ってきたほか、関東・東北豪雨(昨年9月)で被害を受けた常総市にいち早く入り報道した。添島記者は独自の調査や取材で筑波大学の学生宿舎の実態を取り上げるキャンペーン「宿舎を問う」(昨年5月)などを続けている。

常陽新聞編集制作局デスク統括の松本裕樹さんは「筑波大学新聞は今まで独自の調査を行い報道してきた。その経験を生かしてつばはに根ざした記事や調査報道などを積極的に行ってほしい」と話している。(大西美雨)

# 米軍が筑波大に研究資金 04、05年に計960万



米国防府の資料によると、筑波大の研究者は米空軍から、04年11月に1件2万5000ドル、05年1月に3万975ドルと4月に2万6500ドルの計960万の研究資金を受け取っていた。また研究成果の内容として、全てが「物理学、工学

物理学・工学などに 筑波大学は2004年と05年の兩年、米軍から計約8万2000ドル(約962万円)の研究資金を受け取っていたことが米国防府(連邦調達庁)の公表資料でわかった。資料によると対象は「物理学、工学のほか生命科学分野」などとなっているが、筑波大は「文書の保管期限が切れており契約の有無が確認できない」としている。(田中開) 教育学類2年、添島香苗(生物学類3年)

記者の目 日本は戦後、科学技術が戦争に使われたことへの反省から軍事研究と一線を画してきた。だが近年、両者の距離が再び縮まりつつある。象徴的だったのが、昨年7-8月、日本の防衛省が国の防衛などに応用可能な研究テーマを設定し、大学や民間企業などから研究者を募集したことだ。優れたものに最大で年3000万円の研究資金を出すとしたが、109件あった応募のうち58件が大学だった。

例えは東工大の場合、05年、06年、10-13年に炭素繊維複合材などに関連する11研究に計87万ドル(約1億1800万円)の提供を受けたこと(米軍と同意)している。

トヨタと共同研究 公共交通安全システムを研究 障害者や外国人を含め誰もが生活しやすい社会の実現を目指し、筑波大学システム情報系、人間系、芸術系は、トヨタ自動車(愛知県豊田市)との共同研究を昨年11月に開始した。公共交通システムや都市デザインなどの研究・開発を行う。それに伴い、昨年12月10日に事業や研究の概要に関するシンポジウムが大学会館で開催された。

科学技術政策を考える 大学院共通科目の一つである「科学技術・学術政策」の講義の環として、シンポジウムでは、トヨタ自動車や筑波大の学際性を生かし産学連携を進めることを提案し開始。誰にとっても分かりやすいよう音声やイラストを使った標識や、人間の行動科学や都市デザイン、経済など幅広く研究する。

た。加藤教授は、キャンパスと呼ばれる小型車両を複数つなげて移動する新たな交通体系の管理システムを紹介。「トヨタとの共同研究で、万全のセキュリティ対策を施した安全なシステムを開発したい」と話した。また、筑波大教授で国際

産学連携本部審議役の内田史彦氏が講演。「共同研究には、工学的な技術だけでなく社会学や経済学などさまざまな分野の知識が必要。幅広く学際的な研究ができる筑波大学だからこそ可能だ」と語った。(小宮山瑛生) 社会学類1年

シンポジウムは担当教員の一人、白岩善博教授(生環系)が定年退職となるのを節目に、講義の対象である科学技術や学術政策についての学生の考えを見つめ直す目的で行われた。冒頭、内閣府政策統括官の森本浩一さんが、国立大学改革をテーマに特別講演。その後のパネルディスカッションでは、学生から意見や質問が出された。白岩教授は、「参加学生らが積極的に意見を述べられてよかった」と語った。(岡田優太) 社会学類1年、写真も

特別講演を行う森本さん(昨年12月12日、総合研究棟Aで)

# 物理学・工学などに

# トヨタと共同研究

# 科学技術政策を考える

# 催事

キャリアインタビュー2015

1月30日(土)にIH101、第一エリア食堂で開催。午後0時からIH101で受付開始、午後1時から開会。

筑波大学就職課が主催し、筑波大OB・OGが就職活動での質問に応じたり、情報提供を行う。メインイベントのOB・OGとの交流会のほか、「広い視野を持った職業の選択」をテーマにしたパネルディスカッションを開催。

定員は先着120名。事前の参加登録が必要だが、定員に満たない場合は当日参加も可能。 問い合わせ= syushokuk a@un.tsukuba.ac.jp

参加登録用ウェブ ページのQRコード (筑波大学就職課)

アカペラコンサート2016

2月21日(日)につばはホール(つくば市竹園)で開催される。午後5時40分開場、午後6時開演、午後8時30分終演。

筑波大学アカペラサークルDoo・Woppの公演。今年のテーマは、季節の移り変わりという意味の「Passage」。春と冬それぞれの季節の雰囲気やその移ろいを、アカペラを通して演出する。

チケットは前売り券が500円、当日券が600円。 チケット予約 = http://goo.gl/forms/AuUyPuqP

問い合わせ = http://doo.wop.web.fc2.com/w/top.html(筑波大学アカペラサークルDoo・Wop)

能・狂言研究会特別公演 3月5日(土)につばはホールで開催される。今年のテーマは「梅枝」。登場人物の明石の姫君が装束(成人式)を迎える源氏物語の第32帖「梅枝」と3月の季節感を重ね合わせ、若々しい公演にしたいとの思いで名付けた。「胡蝶」、「東北」などの梅を題材にした春らしい演目を仕舞形式で多く上演する。また、狂言「鐘の音」を上演する。午後7時開場、午後4時頃に終演の予定。入場無料。

問い合わせ = s110443@tsukuba.ac.jp (筑波能・狂言研究会、副会長・田中開)

ツイッター = https://twitter.com/tkb\_nokyō

# 地道な取材に評価

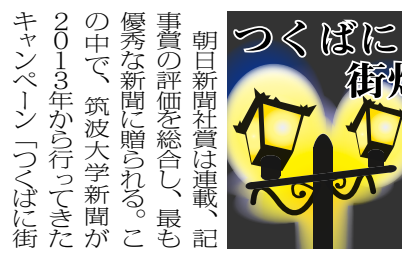
デザイン＝姉崎信(心理学類3年)



街灯設置前の春日4丁目(左)(2013年10月撮影)と街灯設置後(右)(昨年3月撮影)。標識手前にも街灯が付き、格段に明るくなった。

## つくばに街灯を

朝日新聞社賞は連載、記事の多発を総合し、最も優秀な新聞に贈られる。この中で、筑波大学新聞が「1面で「大学周辺 わいせつ事件2倍」と報じた。筑波大学周辺で深夜、女子学生を狙った路上わいせつ事件が前年の2倍近くの17件と多発している、という内容だ。



## 事件多発を機に掲載開始

### つくば市が街灯13基設置

灯を「同コンテスト一般新聞部門の連載賞に決まった。わいせつ事件の被害者や警察、市役所など各所に取材したことや、一連の報道を受け、つくば市が春日4丁目に街灯を設置したことが評価された。

## 宿舎を問う

本紙は昨年以降「宿舎を問う」のキャンペーンを続けている。きっかけは宿舎に住んだことのある記者の「部屋が狭く、建物が老朽化している」という経験だった。「とりあえず事実を集めよう」と含言集に記者たちは取材活動を開始した。宿舎に住む学生へのインタビュー。大学や不動産業者、全学学類・専門学

## 交通違反者を計測

本紙が同コンテストで記事第2位になり、つくば中央署からも感謝状を授与された記事は、昨年11月の1面に掲載した「本紙計測5人に1人が交通違反」だ。これは自転車の交通違反がどの程度いるのかを、筑波大生が多く通る箇所

## 続く各種キャンパーン

群代表者会議(全代会)への取材……その結果、宿舎を取り巻く様々な問題点が浮き彫りにされた。まず驚かされたのは、老朽化や部屋の狭さを理由に宿舎に2年以上の入居を希望する学生が近年減少してきていることだった。全代会が行ったアンケートの結果だったが、実際、宿舎を訪れると古い調理室の床が想像以上に汚れていた。また記者たちは宿舎の部屋の壁内面積をメジャーで測定もした。その結果も7〜8平方メートル程度で、大学の公式パンフレット

## 受賞のコメント

つくば市が「街灯を」の1連の報道を話し合う協議会の発足、わいせつ事件の現場付近に街灯設置……。自分たちの報道で、地域社会が動いていくのを目の当たりにした。

## 大学の軍事研究を問う記事も

昨年12月から始まったのは、大学の軍事研究を問う記事だ。防衛省は昨年から同省が定めた研究課題に取り組む研究者を大学などか

## 感謝状を授与

つくば中央署から18日、赤塚健一つくば中央署長は「記事で自転車の交通違反の実態に触れたこと、交通安全活動に協力し、貢献した」と説明。記事執筆した油布知夏記者(人文学類3年)、新田萌夏記者(社会学類3年)が赤塚署長から賞状を受け取った。

## 虚心坦懐に事実を追及

彼はその言です。1974年10月。本紙は創刊号を出し、長い道のりを歩き始めました。その創刊号で、初代発行者、鈴木博雄氏(現名誉教授)は概略、次のように書きます。一学問研究は厳しい批判的精神に担われているが、大学新聞も旺盛な批判的精神に貫かれたものでなければならぬ。……新聞の自由は批判の自由である。それから40年以上。学生記者の手による新聞は、この精神を脈々と受け継いできました。そして今では、学内はもとより、大学行政に密着した周辺の市役所や警察の動きにも目を配った記事を送信しており、「地域紙としての役割も果たしている」(全国紙幹部と

大澤義明教授(シス情系)が会長に就任。街灯問題の解決に向けて、抜本的な取り組みが期待されている。

た春日4丁目以外にも、事例が多発するなど対策が必要な地域があるはずだ。私自身、つくば市で生活している、暗くて通るのが怖い場所はまだ多いと感じる。「暗くて本言に怖い」「街灯を設置してほしい」。事件現場付近のルポの際に聞いた、学生らの街灯設置を訴える声が忘れられない。新聞の影響力を心に留めながら、本紙は今後も、街灯問題を考え続けていく。

審査員の阿部毅・朝日新聞社報道局文化暮らし報道部長は「地道に調査した結果、5人に1人が自転車の交通違反をしている事実を掘り起こしたは大きい」と評価。記事賞は一橋新聞が受賞。▽3位慶應塾生新聞▽4位上智新聞▽5位法政大学新聞だった。

福原直樹(かへりなおすね)「筑波大学はいい大学でここ数年、本紙を読み続けてきたが、虚心坦懐に事実を追及し、時には大学の在り方を大胆に狙うにのせている。こんな新聞を発行する大学は組織に透視性があり、いい大学だ……」

今回の受賞記事もこの延長線上にあります。詳細は省きますが、記者たちは「事実こそが正義」というジャーナリズムの原則を忠実に守り、足を棒にしてこれらの記事を書き続けてきました。ただ、今回の受賞に記者たちは決して慢心してはいません。彼らは、より良い記事を求め、今日も走り回っています。今後も本紙にご期待ください。

福原直樹(かへりなおすね)「筑波大学教授(ジャーナリズム論)。1982年、毎日新聞社入社。東京本社社会部記者などを経て、同社ニューズ、ブリュッセル、パリ特派員。2012年より現職。

赤塚署長(左)から感謝状を受け取る新田記者(中央)と油布記者(右)(1月18日、つくば中央署で) = 同署提供

つくば中央署から感謝状を授与

18日、赤塚健一つくば中央署長は「記事で自転車の交通違反の実態に触れたこと、交通安全活動に協力し、貢献した」と説明。記事執筆した油布知夏記者(人文学類3年)、新田萌夏記者(社会学類3年)が赤塚署長から賞状を受け取った。

つくば中央署からの感謝状は、筑波大学生の防犯意識向上などを求めるキャンペーンを展開した2014年1月に続き2度目。

◆受賞のコメント

学外から評価されたことをうれしく思う。今後もうつした調査報道のように、学生目線で筑波大やつくば市に根ざした情報を発信していきたい。(新田萌夏)



# 演出を工夫曲に合わせダンス

## 吹奏楽団定期演奏会



息の合った演奏を披露する団員たち (昨年12月18日、ノバホールで)

吹奏楽団の定期演奏会が昨年12月18日にノバホール(こ)は市吾妻で行われ、約500人が来場した。演奏会は3部構成で、第一部では酒井格作曲『ていーだ』などを演奏。『ていーだ』とは沖繩の方言で「太陽」を示す。沖繩のロマンチックな夜空を想像させるブラスの美しいソロや、各パートの美しい旋律で観客を魅了した。第二部ではアラン・メンケン作曲『魔法にかけられて』やリチャード・ロジャース作曲『私のお気に入り』などの有名な曲目を披露。『魔法にかけられて』では指揮者が魔法使いの格好で指揮を執り、演奏中にドレス姿の団員が登場し、曲に合わせてダンスを踊った。

工夫の効いた演出は第三部でも続いた。清水大輔作曲『夢のような庭』もその一つ。指揮者が登場しないまま曲が始まり、最初は各楽器がバラバラに演奏していた。だが徐々にまとまってきて途中から指揮者が現れ、曲をまとめ上げた。演奏会の最後はグレインジャー作曲『リンカンシャワーの花束』。6楽章からなり、それぞれの楽章で異なる曲調と美しいハーモニーを披露した。

孫が団員だという女性は「演出がとても良かった。曲も楽しいものが多く素晴らしい演奏会だった」と話した。また、同演奏会で引退となる3年生の一人、サクセス奏者の濱田志保さん(看護3年)は「吹いている側もとても楽しめた演奏会だった。『私のお気に入り』は3人の主人公が家庭と職場の2つの

# オリジナル作品上演

## 筑波小劇場 非日常表す

劇団筑波小劇場の12月公演が昨年12月19日と20日に2D棟で行われ、同劇団が独自に創作した作品『36・5℃』を上演した。

『36・5℃』は3人の主人公が家庭と職場の2つの入り』はサクセスが目立つので緊張したが、うまくできてよかった」と話した。(加藤未修、写真も)

また脚本と演出を担当した米田佳乃さん(知識図書3年)は「『時間を戻す』など、日常では使わない言葉を使うことで、不思議な世界を表現できたのでは」と話した。(前名裕一)

また、観客に更に楽しんでもらうため企画された、部員と一緒に踊るなど観客を巻き込んだ演出も行われた。休憩時間には部員によるコントなども披露された。

観客席は大盛りの上がりだった。同公演で引退した主将の小野那由他さん(工シス3年)は公演後、「普段別々に練習しているリーダー部に練習しているリーダー部やチアリーダー部、アンサンブルバンド部をまとめるのが大変だった。無事に桐華祭を成功できて、感謝の気持ちでいっぱい」と話した。(前名裕一、12面に関連写真)

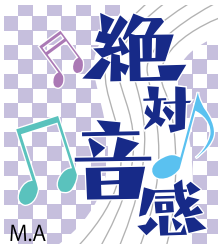
# アメフト応援メドレー披露

## 応援部WINS

筑波大学応援部WINSの単独公演第四回桐華祭が1月16日つくばカピオホール(つくば市竹園)で開催され、300人を超える観客が訪れた。

公演では、「筑波大学応援歌」をはじめ、3年ぶりの上演となる「アメフト応援メドレー」や「野球応援メドレー」など全15曲目を披露。会場には部員たちの力強い声と楽器の音が響いた。

また、観客に更に楽しんでもらうため企画された、部員と一緒に踊るなど観客を巻き込んだ演出も行われた。休憩時間には部員によるコントなども披露された。



# JAZZ愛好会

JAZZ愛好会の「クリスマスコンサート」が昨年の12月20日に1H棟で行われた。

ジャズは西洋音楽とテフリカ音楽の組み合わせで1930年代に発展した音楽。大きな特徴は演奏のほとんどがアドリブで行われることだ。楽譜には「コード」と呼ばれる和音のみが記されている。指定のコードを外れなければ、メロディーやテンポをどうアレンジしても良いため、同じ曲の演奏でも奏者によって

# クリスマスのしやれた一時

全く違う曲になる。その分、奏者同士で合図して音のタイミングを合わせるなどのコミュニケーションが必須だ。

最初に登場したのは「吉川フルパワーパーン」ド。テナーサクセス・ソプラノサクセス・ドラム・ピアノ・ボーカル・ベースで構成されたバンドで、全7曲を演奏した。

5曲目の「How Long Has This Been Going On?」は、男女の純愛を描いた曲。繰り返される「いつからこんな気持ちになったの」という歌詞に、自分でも気づかないうちに恋に落ちてしまったことへの不思議さを乗せて歌う。



薄明かりの教室に、表情豊かなサクセスの音色が広がった (昨年12月20日、1H棟) = 佐々木悠里撮影

曲の冒頭、やや低い音程でしっとりとしたボーカルが始まる。ピアノが優しく歌を包み込む。恋に落ちた不思議さが消えない……。間奏ではサクセスの姿が浮かんでくる。それぞれの楽器の音に、曲が描く少女の複雑で繊細な心情が重なり合ってきた。

次に登場したバンド「野村マルクス團和主」はベース・キーボード・ドラムの3楽器で構成されたバンドで、全3曲を演奏。3人での演奏は音

が途切れることが多く難易度が高いが、「やりがいがあり楽しい」とボーカルの黒木崇央さん(生物4年)。

だが、曲調はなかなか物悲しい部分もあり、弟の失意も見え隠れする。それを押し殺すかのようになり、後半になるにつれキーボードの音は徐々に高く、演奏は加熱していく。彼は涙をこらえ、高らかに兄への感謝を叫ぶのだ。

会場は照明を落としてキャンディが座席に置かれ、ロマンチックな空間を演出。観客の心を一気にクリスマスの雰囲気につけてくれた。一曲を感懐させる演奏会だった。(佐々木悠里「人文書類1年、栗山菜帆子「障害書科学類2年」)



# 『統計学が最強の学問である』

## 西内啓著 (ダイヤモンド社)

**気候システム論**  
一グローバルモンスーンから読み解く気候変動

筑波大学出版会 近刊案内

初版は、2012年3月25日発行。好評発売により、重版。  
猛暑、豪雪、集中豪雨……。異常気象は、なぜ起るのか。これからの気候はどうなるのか。それらを読む

植田宏昭 著  
最新の地球温暖化予測とその解釈、エル・ニーニョ、モンスーンなどの複雑な相互作用を豊富なデータを交えながら解説。  
A5判並製、248頁。昨年12月10日第2刷発行。3000円十税。

# 統計学の Powerful さ紹介

「統計学」と聞くと何を思い浮かべますか。難解な数式の羅列でしょうか、それとも最近世間を流行している「ビッグデータ」でしょうか。統計学は大きな学問体系で、数理統計学「心理量経済学」「医療統計学」「心理学」「社会学」などさまざまな分野の中に根付いて細分化されています。したがって、「統計学を専門」としている」と言っても、その人の興味は数学、経済学、医学、疫学、工学、心理学、教育学……とさまざまです。本書は、著者独自の軽妙洒脱な文章で「統計学はあらゆる分野の中で最強」と位置付けながら、統計学の魅力とパワフルさを分かりやすく紹介しています。

端的にいえば、統計学は、数値的データである「情報」をどのように集めるかを考える学問です。広くいえば、ものの考え方に直結する学問とも言えます。つまり統計学を学ぶことは、単に技術習得的な意味を超え、哲学や宗教とは異なった切り口から人や社会、モノの捉え方を学ぶことで人生の営みを豊かにし、スケールの大きい話でもあると思えるのです。

例えば最近、「睡眠習慣と健康障害との関連を調べるために、164人のボランティアに参加してもらった実験を通して、睡眠不足の人が風邪を引く確率は、十分に休息をとった人より4倍高い(医学誌スリープに掲載)」というニュースが取り上げられました。「睡眠習慣と健康障害との関連」を示すには、そもそもどのような「証拠」が必要でしょうか。少し批判的にこの文面を捉えると、例えば「164人はた

**宇佐美 慧** 准教授 (教育学)

2012年東京大学大学院教育学研究科博士課程修了。博士(教育学)。日本学術振興会特別研究員などを経て、14年4月から現職。

またま選ばれた人だから、その変動性・偶然性を考える必要がある」と思うかもしれません。また「睡眠時間が短い人は、単に仕事のし過ぎによる運動不足で体が弱いかから、睡眠時間が理由ではない」との反論ももともとです。しかし、例えば前者については、統計学はまた異なる164人からのデータを仮に集めた時に結果がどの程度変わってくるかの「解答」を与えます。後者への問いも、統計学的な解決策は整備されています。これらは、統計学を学ぶことで得られる思考様式であり、技術です。私自身は、心理学を学ぶ中で統計学に出会いました。心理学もまた、長い人生での人間理解につながる学問ですが、大学生の時はその価値が十分理解できず、上記のようなさまざまな学問と分野横断的につながる(心理)統計学にハマってしまったのでした。懐の広い学問であるため、統計学を学ぶ入口は実にさまざまです。皆さんはいかが思われるでしょうか。

# 退職教員インタビュー

## 公民館の役割探る

今年もお世話になった教員が定年退職を迎える。彼らは研究はもちろん、教育、社会貢献など多方面で活躍された。教員としての長い道のりを一体どのように感じながら歩んでいったのか。退職の日を前に、教員生活での印象深かったエピソードや学問の道へと進むことになったきっかけ、今後の展望などを聞いた。(佐々木悠里Ⅱ人文学類、橋野朝奈Ⅱ日本語・日本文学類、石川泰行、岡田優太Ⅱ社会学類、深作歩美Ⅱ生物資源学類)

日本の農業の後継者不足 育成には若者の意識を養え 文にまとめた。

問題、公民館の国際比較、これがきっかけとなり、社会教育の観点から物事を捉える面白さに気づき、大学院では社会学を専攻し、農学部農林経済学科に在籍。農業体験に参加した際、農家から後継者不足の現状を聞いた。

当時、後継者問題は農家の平均収入の低さにあると考えられていた。しかし、教授は、後継者不足の原因は若者が農業の役割の重要性を理解していないことにあると分析。「後継者の育成には若者の意識を養うことが必要だ」と考えた。

その後、大学院時代の研究を専門的に多方面から研究する公民館学会の創設メンバーの一員となる。公民館に向かうようになり、公民館職員との専門性が明確に

## 現地との交流に腐心

東日本大震災が起こった際、「何かしなければ」という気持ちにかられたという。そこで阪神・淡路大震災などの過去の被災地の復興に社会教育がどう関与したかを研究した上で、その研究を生かして被災地の地域生活の再建の支援をしようと考えた。

「何かがなければ」という気持ちにかられたという。そこで阪神・淡路大震災などの過去の被災地の復興に社会教育がどう関与したかを研究した上で、その研究を生かして被災地の地域生活の再建の支援をしようと考えた。



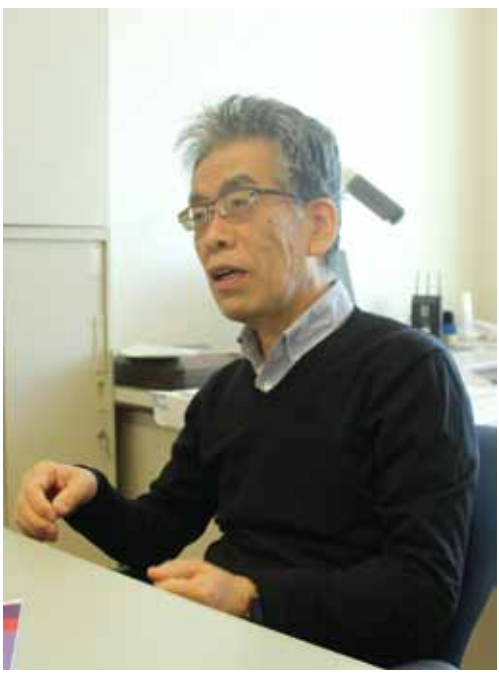
敏明教授 (人間系)

「現場のことは大事にしてほしい」と話すが、海外で研究を行った時には現地の人々の意思疎通に苦労したという。研究のために体力維持を心がけており、時間があるときは水泳やジョギングをしている。

退職後は、「公民館のあるべき姿を追求し、公民館の課題に携わってほしい」と語る。教授の研究はこれからも続いていく。

昨年、手打教授の「生涯学習論」の授業を受けた学生の一人は、「手打教授は生涯学習の場としての公民館に注目し、授業では公民館に関連する法制度のほか、全国各地の公民館でのさまざまな独自の取り組みなどを学んだ。教授は各地の公民館を訪問しており、写真など豊富な資料を使っていた。研究はとも意義深かった」と話している。

## 企業研究員から教員に



栄司教授 (シス情系)

今や多くの人が利用している。この研究を日本で先駆けて行った。

2008年には情報の機密性の維持に有効な暗号方式であるペアリング暗号を

## 暗号研究を先駆ける

がなかった中、世界初となるペアリングの演算を行うための部品である集積回路の開発をした。

その後、大学に自身の拠点を移してからはコンピュータセキュリティ分野の発展に注力。当時はまだ少なかった国内の研究や国際会議の設立を行った「就職して一度広い社会に出るべきだ」と考える国際誌「International Journal of Information Security」を創刊。編集長も務めた。現在、研究会のメンバーは設立当初と比較

## ラグビー



スタメン出場した。「持ち味のスピードは世界でも十分通用した」と振り返り、「19年の日本大会ではチームを引っ張る立場になりたい」と話していた。

今年1月15日には、リオ年の東京五輪出場を目指してデジャネイロ五輪に向けた

## 女子サッカー



ポジションが同じため「ポスト澤穂希」として早くから期待されていた。年代表の日本代表に選ばれた。2014年にサッカー日本女子代表に初招集。同年5月のニュージーランド戦で代表デビューを果たした。

## 柔道



今年も筑波大学からは、トップアスリートが羽ばたいていく。中でも特に輝く4人を紹介する。(鈴木拓也Ⅱ人文学類、井口彩、大西美雨、小宮山瑛生、新田萌夏Ⅱ社会学類、中田開Ⅱ教育学類)

## 剣道



将戦でも決まらず、優勝を懸ける代表戦に選出され、面一本で勝利。筑波大学を優勝に導いた。

2012年に入学。男子81kg級で、同年全日本ジュニア柔道団体別選手権大会で優勝した。また翌年カザン(ロシア)で行われたユニバーシアードでも優勝。その名を世界に知らしめた。

入学直後の2012年5月、関東学生選手権でベスト8に入った。当時からの鋭い面が得意で、この時も鋭い面で勝利した。

2年に進級後、11月に行われた全日本学生剣道優勝大会の決勝戦では勝利が

# 今後も夢追う

## 藻類に魅せられて

水中に生息する藻類の研究の第一人者。2014年、水中の放射性セシウムを吸収する藻類を発見した。東日本大震災の除染に貢献するために取り組んだ。山形県の内陸部出身で、高校時代は生物部に所属。研究者になるとは思っていなかったという。

大学では理学部生物学科に進学し、卒業後、大学院に進学。学会発表などで海外からも大きな注目を集めた。

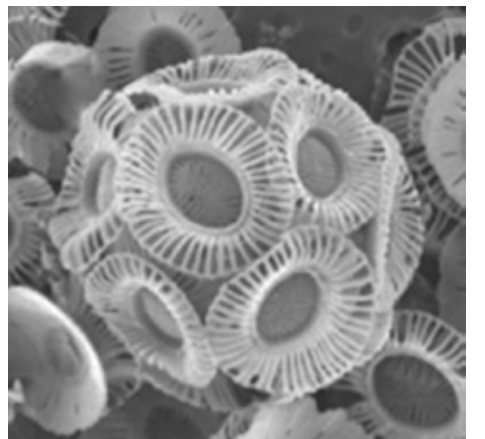
研究だったが、アメリカのラジオ番組に出演するなど、海外からも大きな注目を集めた。

山形県の内陸部出身で、高校時代は生物部に所属。研究者になるとは思っていなかったという。

大学では理学部生物学科に進学し、卒業後、大学院に進学。学会発表などで海外からも大きな注目を集めた。



白岩 善博 教授 (生環系)



研究の大きなテーマになった円石藻=白岩善博教授提供

海洋生物の現地調査をした時、生まれて初めて海に入り、そこで海藻など海の生物の美しさに感動し、興味を持った。「当時は自分が研究者になるとは思っていなかった」という。

研究人生で印象深かったことは、全世界の海に大量に生息する藻類の一種、円石藻に出会ったことだ。

円石藻は光合成や油の生産を行うため炭素を吸収し、人工的な石油生産に貢献する可能性がある。北極海から採取した円石藻の培養に世界で初めて成功し、その特性を解明した。

教員として学生の教育にも尽力。学生と国際会議に参加した際、英語で議論できない学生がおり、「学生の英語力が非常に足りないと感じた」と話す。以来、自身のゼミはすべて英語で

## 英語教育にも尽力

TOEFL講座も開設。国際的な英語能力試験TOEFLの点数は海外への留学や就職などの際に評価されるが、講座の受講者はそれほど多くないという。他大学では高額の講習費を払いTOEFLの勉強をする学生が多いのに対し、「筑波

大生は危機感が足りない」と主張する。

さらに、情報生物学専攻長に就任し、04年には、大学院生が語学力や倫理などを学ぶ「大学院共通科目」を考案。現在は筑波大学を代表する教育プログラムの一つとなっている。「新しいことを発見する研究も魅力的だが、教育も自分が育てた人材が新たな人材を育成していくのが面白い」と話す。

退職後も、大学で研究や学生の指導を行う予定だ。「円石藻で石油生産するという夢を叶えたい」と意気込む。

帰国直後は大学院でロシアへ再度留学したいという思いもどこかにあった。5社に絞って受けた企業の採用試験は、社会で自分が通用するのかが、力試しのつもりだった。

それが、ロシア語の先生だった。せっかくなので乗っかかった。合格していた他大学の大学院は辞退し、三菱商事に入社した。それから間もなく8年。ロシア駐在の希望は



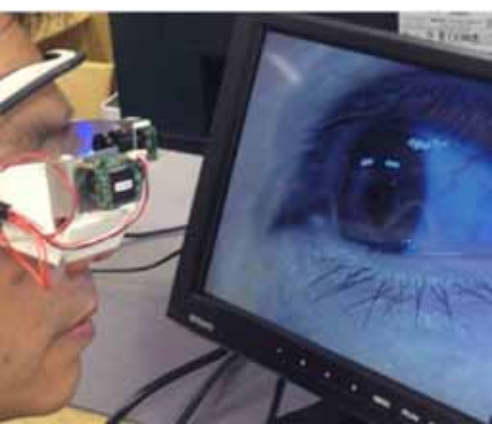
自動車が絡む死亡事故が後を絶たない。自動車の長時間運転による体調の変化や、小道から出てきた歩行者に注意不足で気付かないことが主な原因だ。その解決策の一つとされるのが、星野聖教授(シス情系)らが開発した超軽量・小型のメガネ型眼球運動計測装置だ。

## 視線の動き捉える眼鏡

## 交通事故の減少目指す

差点など危険な場所付近に付いた際、視線がその地点と明らかに違うところを見ていくとカーナビが「左の小道に注意」と音声で警告する。

眼球運動を計測する装置は以前からあったが、星野教授が開発した



装置を着け眼球運動を計測する様子。白目にある血管の動きがよく見える=星野聖教授提供

ものは構造が大きく異なる。従来は、角膜に反射した光や瞳孔の動きを細かく計測。カメラを頭部に強く固定したり、計測部に光が入ることを防ぐために頭部を頑丈に囲ったゴーグル型の装置が必要で、正確に計測するには被計測者の負担が大き

で、周囲の明るさの影響を受けにくい。計測部が被計測者のまぶたの形状やまばたきなどに隠れにくい。このため、簡易なメガネ型の装置で楽に眼球運動を計測できる。

装置の技術は、交通事故の防止のほかにもさまざまな場面での応用が期待できる。

トの客に装置をつけてもらうことで、視線の動きを計測し、客が買い物をした場所や、長い間見ている商品などを調査することもできるという。

星野教授は「道路の整備や信号の設置には膨大な時間やお金がかかるため、効率的に事故を防止できる技術があればと思

今思えば、何か一つに集中するというより、興味を越えまわらなうま味をした大学時代だった。司法試験を目指して、主要法律科目の授業のほか社会学類の刑法ゼミにもお世話になった。

高校までは文系だったが、1年次に必修の数学で学んだオイラーの公式の美しさに魅せられ、微積分、複素関数、物理や電気回路の授業に夢中になった。一時は本気で理系大学院への進学も考えたほどだ。日本史の授業を聴いては歴史学者も面白そうだったと思ったりもした。

情熱的なロシア語の先生方に勧められるがまま、1年間サントペテルブルクに留学、いつしかロシアやその人々と関わる仕事がしたいと思うようになった。

早くも入社3年目で叶い、在モスクワのロシア企業に4年弱出向する機会を得た。留学時代から通算すると20代のちょうど半分をロシアで過ごした。今はロシアから離れたトルコ企業と提携したインフラビジネスに携わっている。トルコもなかなか

## 出会いと縁を大切に

三菱商事 企画業務部 土屋 智さん



三菱商事 企画業務部 土屋 智さん

後輩の学生の皆さんへお伝えしたいことは二つ。第一に、自分の専門にとらわれず、興味の幅を広げること。他学類の授業も自由に履修できる筑波大学は、幅広い教養を身に付ける絶好の環境だと思ふ。第二に、自分が思ってもみなかった偶然の出会い、縁を大事にすること。私の例であれば、それはロシア留学であり、今の会社への就職であった。裏を返せば他の選択肢を捨ててきたわけだが、少なくとも今のところは、大学時代の選択に悔いはない。(平成19年度国際総合学類卒業)



で、将来の進路などについて収束するはずがなく、むしろ興味は広がるばかり。結局今の私に決定的な影響を与えたことになったのは、2年次から本格的に始めたロシア語

帰国直後は大学院でロシアへ再度留学したいという思いもどこかにあった。5社に絞って受けた企業の採用試験は、社会で自分が通用するのかが、力試しのつもりだった。

それが、ロシア語の先生だった。せっかくなので乗っかかった。合格していた他大学の大学院は辞退し、三菱商事に入社した。それから間もなく8年。ロシア駐在の希望は

か、面白い。そして楽しいのは、仕事内外での同僚やパートナーとの議論の中で、大学時代に学んだ法律や数学、歴史等の知識が役に立つ場面が少なくないこと。無駄なことは何もなかったのだと気づく。

## 筑波大学 自然図鑑



撮影地=つくば市沼田

昆虫が活動するのは何月頃ではない。コブハサミムシにとっては冬真っ盛りの今が、出会いのシーズンだ。ハサミムシの間では、このコブハサミムシのみ母親が生きたまま子供に食われるという習性を持つ。主に山間部の谷筋で繁殖するのだが、夏にはしばしば谷筋を流れる川が増水し、そこに留まらなくなる。このため、夏前には翅の生えた成虫(短い前翅の下に、飛ぶための大きな後翅が巧妙に折り重なっている)となり、一番手頃

に手に入る栄養源(卵を保護する役目を終えた母親)を食べるようになったようだ。愛する子供のためならなんでも出来るという人もいるようだが、さすがにコブハサミムシほど子供のために体を張る親はそういないだろう。(写真・文=原良輔 生物1年、野生動物研究会)

# 5年ぶりに4強逃す

## 大学選手権

【秩父宮ラグビー場(東京都港区)で大西美雨II社会学類2年、山野辺拓実II同2年、写真も】ラグビーの大学日本一を決める全国大学選手権が昨年11月22日から今年1月10日にかけて行われた。前回優勝の筑波大は、16大学が4組に分かれリーグ戦を行うセカンドステージでC組2位に終わり、5年ぶりに4強入りを目指した。



敵をかかわして相手陣に切り込む福岡(昨年12月27日、慶應大戦で)

### ラグビー

#### ■大東文化大戦

12月13日、秩父宮ラグビー場(東京都港区)での大東文化大(関東リーグ4位)と対戦し、22-31で敗れた。前半10分に本村直樹(体専4年)がトライを決めると、続けてゴールキックで得点を重ねた。しかし、その直後から大東文化大が猛追。10-17とリードを許し、前半を終えた。

筑波大は後半も流れをつかめなかった。14分には本村、23分には亀山宏太(同4年)がトライしたが、開いた点差を埋められなかった。

#### ■同志社大戦

12月20日には花園ラグビー場(大阪府東大阪市)で同志社大(関西リーグ1

位)と対戦、36-22で逃げ切った。前半26分に同志社大がペナルティゴールで先制。だが直後の28分に筑波大の木村貴大(同4年)がトライ。渡邊洋人(化学3年)もトライを決め、12-8で前半を折り返した。

## 福岡が好トライ

#### ■慶應義塾大戦

12月27日に秩父宮ラグビー場で行われた慶應大(関東対抗戦5位)戦は、4年生にとって最後の公式戦になった。先制点を奪ったのは筑波大。前半15分に相手の守備を突破した本村から左サイドでボールを受けた福岡がゴールラインに滑り込みト

後半に入っても筑波大の勢いは止まらなかった。10分には、26-8と大きく同志社大を突き放した。中盤、同志社大が一気に7得点を挙げると、26分、福岡がトライ。渡邊洋人がトライ。堅樹(情報4年)がトライ。その後も亀山の得点で逃げ切った。

#### ■同志社大戦

12月27日に同志社大(関西対抗戦5位)戦は、4年生にとって最後の公式戦になった。先制点を奪ったのは筑波大。前半15分に相手の守備を突破した本村から左サイドでボールを受けた福岡がゴールラインに滑り込みト

左サイドで受けたボールを軽く前方に蹴り守備をかかわすと、落ちてくるボールを自分でキャッチしそのままからパスを受けた山内俊輝(同4年)がトライを決めた。勢いが止まらない筑波大は試合終了までにトライを4回重ね、64-7で快勝した。

#### ■男子

試合後、橋本は「4年間のすべてがこのスコアに表れた。後輩の手下となるプレーができたと思う」と振り返った。古川拓生監督(体育系・准教授)は「今年はセカンドステージで敗退してしまっただけ、体のぶつかり合いで引くことのない筑波大らしい戦いが最後までできた」と話した。

## 全日本ラート競技選手権

# 女子 松浦が4連覇



見事な演技を披露して4連覇を果たした松浦(昨年12月13日、全日本ラート競技選手権で)

## 堀口は2位入賞

### 体操

【つくばカリオ(つくば市竹園)で中垣音彩II心理学類1年、写真も】全日本ラート競技選手権が昨年12月12-13日に行われた。筑波大の体操部からは10人が決勝に進出し、女子は松浦佑希(体育1年)が総合4連覇を達成した。また、堀口文(同2年)が松浦と0.05点差で2位入賞を果たした。松浦と堀口は今年6月の世界選手権(アメリカ・シンシナティ)への出場を決めた。

総合4連覇を果たした松浦は、全部門で昨年よりも難易度の高い技を取り入れた演技構成で臨んだ。直転では10・30点と堀口に及ばず2位。斜転でも、ミスが無い安定した演技を披露し

たが2位だった。一方、昨年1位だった跳躍では、難易度の高い後方かかえり宙返り跳び2回ひねりを成功させ、2年連続1位になった。

また総合2位の堀口は直転で10・70点の高得点を出し1位を獲得した。跳躍では2位、斜転では3位だった。今大会を振り返って、松浦は「4回目の優勝だったが、今年が一番うれしい。今年6月の世界選手権を見据えた演技で優勝でき、大きな自信になった」と話した。世界選手権に向けては「昨年は9位に終わって悔しい思いをした。今年は決勝で自分の満足のいく演技ができるように練習に励みたい」と語った。

## 高橋も4連覇

### 男子

男子総合は、筑波大体操



ロードでの実践練習を行う駅伝チーム(昨年9月21日、長野県上田市菅平高原で) 陸上競技部提供

部出身で2013年世界選手権金メダルの高橋靖彦(平成24年度人間総合科学研究科修了)が2位に3点以上差をつけ31・80点で4連覇を達成した。高橋は直

転、斜転、跳躍の3種目すべてを制し、完全優勝を果たした。田村元延(コーチ2年)は28・65点で総合2位だった。

## 男女とも3回戦敗退

### バスケット

【大田区総合体育館(東京都大田区)で大西美雨II社会学類2年、写真も】バスケットボール日本一を決める全日本選手権が1月11日まで行われた。筑波大からは昨年11月の全日本学生選手権で優勝した男女ともに出場したが、プロチーム相手に苦戦し、男女とも3回戦で敗退した。

#### ■男子

3日に大田区総合体育館(東京都大田区)で行われ、3回戦で、プロリーグ1部NB3位(1月21日現在)のアイシン三河に54-106で敗れた。序盤からアイシンの2桁を越える身長で外国人選手を中心に攻撃に圧倒され、失点が続いた。筑波大も馬場雄大(体専2年)が3ポイントシュートを決めるとしたが、14-29で第1ピリオドを終了。第2ピリオド以降もアイシンの勢いを止めることができず、



シュートを狙う馬場雄大(1月3日、アイシン三河戦で)

徐々に点差を広げられ大敗を喫した。馬場は「アイシンの選手が、ドリブルやシュートなどの基本的なプレーを丁寧に行っているところにプロの強さを感じた」と話した。

吉田健司監督(体育系・准教授)は「全日本学生選手権に過度に意識が向いていたため、(今大会は)調整不足の選手が多かった。来年は全日本選手権でも勝ち進めるチームを作りたい」と語った。

#### ■女子

2回戦で全日本社会人選手権2位の鶴屋百貨店を破った筑波大。駒沢オリンピック公園総合運動場体育館(東京都世田谷区)で行われた3回戦ではトップリーグWJBL8位(1月21日現在)の三菱電機に61-82で敗れた。

第1ピリオドは、エースの藤岡麻菜美(体専4年)を中心に得点を重ね、18-14で筑波大がリード。だが第2ピリオド開始直後、三菱電機に速攻で崩され逆転される。そのまま突き放された。渡邊愛加(同3年の3Pシュート)などで立て直しを図ったが32-47と勝ち越されたまま前半を終えた。後半も三菱電機に攻め立てられ、点差を縮められなかった。

大高敏弘監督(体育系・教授)は「第2ピリオドで流れを止められなかったのが要因。来季はディフェンスとリバウンドに強いチームを作りたい」と語った。

## 古豪復活へ勝負の6年目

筑波大陸上部の駅伝チームが、箱根駅伝の本戦出場を目標に日々練習に励んでいる。

2011年に「箱根駅伝復活プロジェクト」が始まり、10年に29位だった予選会の順位は、昨年には22位と、徐々に成績を上げてきた。弘山勉監督(体育系・特任助教)は「選手たちに自分の可能性を信じてほしい」と話している。

さまざまな競技で日本トップレベルの選手が揃う筑波大だが、駅伝チームは「古豪」となっていた。1920年の第1回大会は前身の東京高等師範学校が優勝を収めたが、1994年

## 箱根駅伝復活プロジェクト

の第70回大会を最後に本戦出場から遠ざかっている。そこで2011年、「箱根駅伝復活プロジェクト」がスタート。5年以内の本戦出場、10年以内に優勝という目標を掲げた。予選会での順位は上がったものの、本戦出場には依然として遠かった。

昨年4月、プロジェクトの改革を図るため、陸上の強豪、資生堂で監督をしていた弘山勉が監督に就任した。就任してから1カ月半はチームの様子を見た。選手たちの意識が低く、練習の量と質も足りない現状を知り、このままでは箱根を目指せ

ないと悟った。本気で箱根を目指すために練習内容を大きく変えた。「弘山監督が来てから、練習の質が高まった」と選手たちは口を揃える。昨年10月17日の予選会では22位と、結果はふるわなかったが、予選会に出場した才記壮人(体専3年)は「前年よりもチームとして戦うことができた」と語り、手心えを感じている。

(橋野朝彦)





【写真：田村翔／アフロスポーツ】

誤審で反則負けとなり3連覇を逃した永瀬  
(昨年12月6日、東京体育館で)

# 永瀬3連覇ならず 誤審で準決勝敗退

グランドスラム

世界のトップ選手が争うグランドスラム東京2015が昨年12月4-6日に東京体育館(東京都渋谷区)で行われた。前回、前々回と連覇を達成した男子81kg級の永瀬貴規(体専4年)は誤審に泣き、3位に終わった。永瀬は2回戦から出場すると準決勝でステイブンス(アメリカ)と対戦。相手に攻撃する隙を与えず、一本勝ちを収め、準決勝に進んだ。準決勝の相手はイ・ソン(韓国)。試合開始直後から相手の懐に入り、大内刈りを何度も仕掛けるなど

## 柔道



積極的に攻めた。2分33秒には大内刈りから得意の内股に転じ、相手を投げに行こうとした。相手は左足で永瀬をまたぎ、逃れようとしたが、永瀬が相手をすくい投げのように裏返した。一本勝ちのように見えたが、審判は永瀬の左手が相手の下半身を持っていないとして、足取りの反則をとった。だが実際には、永瀬は左手で相手の上着の裾を握っていた。永瀬が判定直後に上着の裾をつかんで誤審を訴え、日本男子代表の井上康生監督も抗議したが、判定は変更できなかった。国際柔道連盟は競技終了後に誤審を認め、謝罪した。(加藤末悠)

## 記録ファイル

◆バドミントン 第5回全日本教育系学生選手権(昨年12月26-27日、葛飾区総合スポーツセンター) 【男子】▽シングルス 馬場湧生(体専2年) 優勝、下川大樹(同1年) 準優勝▽ダブルス 馬場湧生・下川大樹 3位 【女子】▽シングルス 大久保敦美(同3年) 優勝▽ダブルス 綿矢夕里(同3年)・柏原みき(同2年) 優勝 ◆弓道 第27回全国日置流弓道大会(昨年12月6日、筑波大学蓬矢館弓道場) 【男子】▽個人 浅利光(同1年) 優勝

# 全日本インカレ 男子 中央大に敗れ準優勝



円陣を組み、気合を入れる筑波大選手(昨年12月6日、大田区総合体育館で) = 男子バレーボール部提供

## 高いブロックに苦戦 バレー

【大田区総合体育館(東京都大田区)で佐々木悠里(人文学類1年)大学バレーボールの日本一を決める全日本インカレが昨年12月1-6日に行われ、筑波大は男子が3年ぶりに決勝に進出したが、中央大に敗れ準優勝となった。敢闘選手賞、レシーブ賞に宮下拓也(体専4年)が選ばれた。関東大学リーグを春秋制覇し、優勝が期待された女子は3回戦で鹿屋体育大に敗北し、ベスト16に終わった。

2回戦から出場した男子は、準決勝の明治大戦まで1セットも失わず決勝に進出。昨年の優勝校・中央大に臨んだ。だがスタメンの平均身長が190cmを超える中央大



鋭く決まるアタック(昨年12月5日、大田区総合体育館で) = 同部提供

の高いブロックに苦戦し18-25で第1セットを落とし、その後「コートの隅を狙うなどの『攻め』のサーブを増やした」(秋山監督)で、相手も崩す場面も見られたが、試合の主権を握るには至らず、第2セットを18-25、第3セットも17-25で落とし、ストレート負けを喫した。秋山監督は「サーブで崩され、ブロックを越えるスパイクに繋げられなかった。この苦い経験を次のインカレに生かしたい」と語った。女子は1回戦の大阪国際大、2回戦の千里金蘭大戦

た。筑波大からは女子が出場し1回戦では札幌山の手高に3-0で勝利。続く2回戦ではVリーグ1部のデューラーエアービーズを相手にフルセットまで粘ったが、接戦を制することができず、2-3で敗れた。

バレーボール日本一を争う全日本選手権ファイナルラウンドが、昨年12月18-27日に東京体育館(東京都渋谷区)などで行われた。筑波大からは女子が出場し1回戦では札幌山の手高に3-0で勝利。続く2回戦ではVリーグ1部のデューラーエアービーズを相手にフルセットまで粘ったが、接戦を制することができず、2-3で敗れた。

## 夏の練習で成長

### 観戦記

3年ぶりの決勝進出となった今大会。秋山監督(体育系・助教)は「4年生を中心に行った夏の猛練習の成果だ」と振り返った。筑波大は少数精鋭のチームだ。決勝で戦った中央大の部員数27人に対し、筑波大は16人。その上、高橋健太郎(体専3年)や児玉康成(同3年)など全日本代表などに選ばれた選手も多く、リーグ戦では主力メンバーが揃ったことほとんどなかった。

だが、その分夏場にチームに残った選手が「人数が少ないため回転が速く、質が高かった」(高橋達己)という練習をこなした。チーム全体のディフェンス力やカウンター攻撃が向上。それが全日本インカレ決勝進出という結果につながったという。

敢闘選手賞とレシーブ賞を受賞した宮下拓也(同4年)も夏に鍛えられた一人。一般入試で入学した宮下は、最初は推薦入試組の控えだった。だが、ひたすらボールを繋いでくれた

が、相手のいない場所を狙って放ったボールはネットに引っかかった。自身のミスで中学最後の大会が終わってしまった、「しばらくの間、相手コートにボールを返すことが

できなかった。練習試合を重ねることで克服したが、この時の経験から「最後まで気を抜かないことの大切さを学んだ」と振り返る。

この大会を最後に4年生が引退し、新たなチームとなる。この悔しさをバネに再びこの舞台まで駆け上がり、今度は喜びの涙が見られることを願う。(佐々木悠里)



昨年12月の全日本インカレ決勝。1年生ながらセッターとして出場し、186cmの長身から繊細なタッチでボールを自在に操り、攻撃のタクトを振った。U-23日本代表にも飛び級で選出される日本バレーボール界期待の星だ。

静岡県出身。バレーを始めたのは小学2年の時。サッカーや野球などもしたが、「運動神経があまり良くな、続かなかった」という。だがバレーだけは違った。「レシーブやトスがまたま上手にできた時に褒められ、それが嬉しくて続いていた」。当時はアタック



バレーボールU-23日本代表

## 酒井啓輔(体専1年)

全体的練習後に先輩や監督にジャンプトスのアドバイスをもらった。「練習を続けるうちに少しずつ調子が良くなっていった。2年生の時には春高バレーに出場、3年生になると全日本高校選抜に選ばれるまでに成長した。

酒井は、あとも一歩で逃した全日本インカレ優勝を目指す。そして将来は2020年の東京五輪への出場を夢に描いている。「セッターは司令塔的ポジション。勝ちたい時こそ冷静に周りを見渡せる選手になりたい。ひたむきな努力で培われた確かなトスで、チームを頂点へ導く。(佐々木悠里)人文学類1年、写真は本人提供)

目指すは東京五輪

## 目指すは東京五輪

準決勝の最終セット、相手チームのマッチポイント。チームメイトが審判台にぶつかりながら「最後まで気を抜かないことの大切さを学んだ」と振り返る。

酒井は、あとも一歩で逃した全日本インカレ優勝を目指す。そして将来は2020年の東京五輪への出場を夢に描いている。「セッターは司令塔的ポジション。勝ちたい時こそ冷静に周りを見渡せる選手になりたい。ひたむきな努力で培われた確かなトスで、チームを頂点へ導く。(佐々木悠里)人文学類1年、写真は本人提供)

# 土井教授の著書、国語の問題に

## センター試験 筑波大で6843人受験



センター試験に臨む受験生たち (1月16日、3A棟) = 岡田優太撮影

大学入試センター試験が1月16-17日に行われ、筑波大学でも前年より128人多い6843人の受験生が慎重な表情で問題に取り組んだ。筑波大周辺は両日とも雪などによる試験の遅れはなげ、1日目は「地理

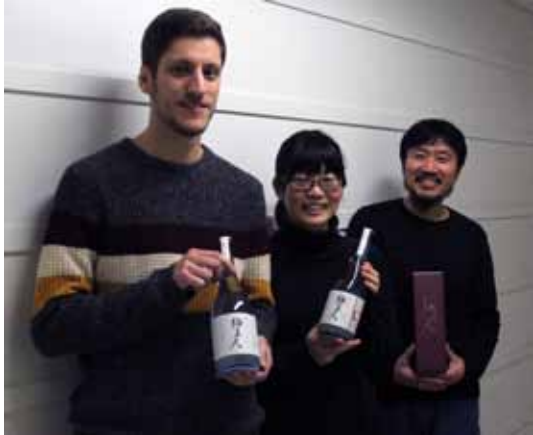
歴史・公民」「国語」「外国語」を、2日目は「理科」と「数学」を実施した。16日に行われた英語のリスニングテストでは2人に1人の不具合があり、別の機器を使って中断部分からやり直す「再開テスト」を受けた。



国語の問題冊子を持つ土井教授 (1月20日、人文社会学系棟) = 徳永翼撮影

国語の問題冊子には、評論の問題で土井隆義教授(人社系)の「キャラ化される子どもたち」(岩波ブックレット)の一部がスマートフォンやネットなどを通じて過度に繋がりが合い、その中で衝突の少ない人間関係を望む現代の若者の実態を描く。土井教授は自身の著作が試験に使われたことに「試験後に、ネット上で文章が話題となったようだが、自らに描いた通りの光景がそ

でも再現されていて興味深かった」と話した。筑波大で受験した学生は「筑波大は人が多く、緊張して思うような結果が出せなかったが、英語のリスニングは手応えがあった」と話した。(徳永翼)



デザインを行ったラベルが貼られた「柚美人」を手にする佐々木さん(中央)ら (1月7日、芸術学系棟)

### 豪雨被害の酒造を支援 学生がラベルをデザイン

関東・東北豪雨で被災した老舗酒造会社、野村醸造(常総市石下町)の復興支援のために筑波大生が日本酒「柚美人」のラベルをデザインし、昨年12月中旬に約2000本が初出荷された。

学生らが野村醸造に訪れ、出荷作業をすべて手作業で行っているのを知り、ラベルには「ご支援、ありがとうございます」と

感謝の言葉が書かれていた。瓶にはラベルと水引きが付いており、感謝の気持ちを表現したデザインとなっている。

佐々木楓さん(専4年)は「野村醸造の復興への思いを聞き、感銘を受けた。デザインの面から協力できて嬉しい」と笑顔で話した。野村醸造社長の野村一夫社長は、「キレイなデザインで満足している。マスコミなどにたくさん取り上げられて話題になっている」と話した。

今後、原准教授の研究室では、酒造の本格的な復興を目指して、店舗の改装などにも着手していく予定だという。(大西美雨、写真)

### 哲学カフェ

日々の疑問語り合う 身近なテーマについて学生や社会人たちが哲学者を交えて議論する哲学カフェ「ソクラテス・サンバ・カフェ」が昨年12月27日、東京キャンパス文京校舎で行われた。哲学カフェは人文社会科学部哲学・思想専攻の教員らが毎月開催しているもので、今回は社会人や学生など約20人が参加した。

参加者はまず、「むなしさとは何か」など日々の生活で気になっている話題を次に参加者はいくつかのグループに分かれ、持ち寄った話題の共通点を探し

### 「私たちはテロを恐れない」

#### ジャカルタ 見聞録

【一面参照】 ジャカルタで平嶋健人(社会学類4年、写真)もインドネシアはイスラム教徒が人口(約2億4000万人)の9割を占めるイスラム大國だ。過激派組織「イスラム国」(IS)が起したとみられる残虐なテロは、同国社会にどんな衝撃を与えたのだろうか。

### 戻りつつある日常

市内の観光施設や商業施設の入り口なら、必ずあるはずの手荷物検査も無く中に入れた。モスク内を案内して、戻った同モスク職員が「ディーンさん(40)に聞くと、あえて警備を強化していないという。」「いきなり警備を強めたら、みんな不安になってしまう」と、テロリストの思うつぼだ。テロの影響で礼拝者も減ったのでは、と思っただけ、その日の金曜礼拝は普段と何も変わらなかつたという。礼拝場を覗くと、何人かのイスラム教徒が熱心に礼拝していた。

は悪いイスラム教徒だ。テロがあろうがなかろうが、私たちがたまたま祈り続けるだけだ」と答えて、おもむきに私のカメラを手に取った。「そんな話は

前の道路の車線にはみ出すほど集まった人々の手には、私たちが「私たちが(テロを)恐れない」と書かれたプラカード。昨年起きたバリの同時多発テロを機に広まった標語だった。

テロ行為を非難し、大声でインドネシア民謡を合唱する彼らがいる通り沿いには、お菓子やジュースの売り子が普段以上に並んでいた。飲み物が飛ぶように売られて「商売繁盛」だという。そこには前日まで感じられたテロの恐怖はないように見えなかった。

テロから4日経った夜、スターバックス前を通りかかった。前日まで大量にあった花束や追悼の言葉が書かれたボードは、通行の邪魔になるから警察によって撤去され、今にも消えそうなお店の前には、ただただ燃えていた。歩道を埋め尽くしたメディアももういない。バイクタクシーの運転手たちはスターバックス前の駐車場で仲間とたばこをふかし、そばの移動屋台からはサテ(インドネシア風焼き鶏)の炭火の香りが漂っていた。やはり爆発のあった警察官詰め所前には銃を持った警官が立ち、商業施設やオフィスビルでは手荷物検査を二重に行うなど警戒体制は続く。テロの恐れは消えないが、インドネシア市民には日常が戻りつつある。

### 留学生の目

ペドロ・パソス・コウテロ

来日して一ヶ月になつたことは、いわゆる仕事文化である。残業や過労死などの単語が良く聞かれる。日本は仕事熱心というイメージが強いが、別の捉え方が可能であるのを感じてきた。

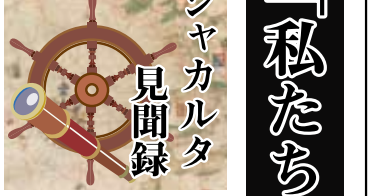
### 日本の労働環境に疑問

日本に比べて、日本の労働環境が他の国と比べて長くなることは事実である。しかし、仕事への熱意とは勤務時間

長時間労働ではなく、効率性の観点から。一日8時間の通常勤務時間を超える、残業の給金は法律に従って通常の賃金より高い。いわゆる残業手当がつくのだ。加えて

める会社は理解し難い。企業は、従業員が残業を行うことを、「仕事熱心で良いこと」ではなく「会社に損失を与える体制」として見る必要がある。当然、時には残業が必要場面もあるが、経営者にとっては、毎日従業員が残業をするのは、従業員の人数が足りないか、従業員の効率が悪いことどちらかを表している。

もと言え、退社時間が決まっていることこそが仕事効率化の動機づけになる。通常の勤務時間を超えて会社に残留することを認められないと定めれば、翌日までに終わらせなければならない仕事は勤務時間中に終わらせようという努力するはずである。残業という選択肢を与えられた従業員は、通常の勤務時間中



いいから、記念撮影でもしよう」と明るく言う。爆破現場に行くと、前日のテロの犠牲者を悼んで、献花する人など数百人が集まっていた。爆発があったスターバックス

テロを機に広まった標語だった。テロ行為を非難し、大声でインドネシア民謡を合唱する彼らがいる通り沿いには、お菓子やジュースの売り子が普段以上に並んでいた。飲み物が飛ぶように売られて「商売繁盛」だという。そこには前日まで感じられたテロの恐怖はないように見えなかった。

花やプラカードを手に事件現場に集まる人々 (1月15日、ジャカルタ)

日本に比べて、日本の労働環境が他の国と比べて長くなることは事実である。しかし、仕事への熱意とは勤務時間

長時間労働ではなく、効率性の観点から。一日8時間の通常勤務時間を超える、残業の給金は法律に従って通常の賃金より高い。いわゆる残業手当がつくのだ。加えて

める会社は理解し難い。企業は、従業員が残業を行うことを、「仕事熱心で良いこと」ではなく「会社に損失を与える体制」として見る必要がある。当然、時には残業が必要場面もあるが、経営者にとっては、毎日従業員が残業をするのは、従業員の人数が足りないか、従業員の効率が悪いことどちらかを表している。

もと言え、退社時間が決まっていることこそが仕事効率化の動機づけになる。通常の勤務時間を超えて会社に残留することを認められないと定めれば、翌日までに終わらせなければならない仕事は勤務時間中に終わらせようという努力するはずである。残業という選択肢を与えられた従業員は、通常の勤務時間中

その後、見つけた共通点をもとに自他の関係などについて話した。次第に議論は教育や宗教、時事問題にも及び、3時間かけ白熱した議論が繰り広げられた。

これまで何度も哲学カフェに参加したことがあり、色んな考えを持った人々の話を聞くことができるので、魅力を感じた。

運営に携わる五十嵐沙千子准教授(人社系)は「他者を通して自分の考えをみたり、自分の思いを共有したりする場所になれば良い」と述べた。(徳永翼、12面に関連写真)



# Who's Who?

俳句同人誌「しばかぶれ」編集長

## 堀下 翔 さん (比文2年)



編集長を務める「しばかぶれ」と堀下さん(1月18日、2A棟前で)

自身が編集長を務める俳句同人誌「しばかぶれ」の第一集を昨年11月に発行した。しばかぶれとはシモフリシメジというキノコの別名。「ナンセン」な面白さを求め、この題名に落ち着いたという。昨年11月に東京で行われた文学同人誌の即売会で販売したところ、約4時間で完売した。

北海道出身。中学時代は高校生にして第一詩集を刊行した詩人・文月悠光に憧れ、趣味で詩を制作していた。高校では文芸部に入学。1年生までは詩の制作に取り組んでいた。転機が訪れたのは2年生の時。部で俳句の全国大会である「俳句甲子園」に出場することになり、メンバーが足りず、急

きよ参加。決勝トーナメントの1回戦で敗退したが、決勝を観客席で観た。助詞の選び方や漢字と仮名の使い分けで勝敗が決まる世界。同世代が詠む句のレベルの高さに驚かされた。決勝で敗れた高校のリーダーは号泣していた。「詠み手の1字1句に込められた熱い想いを感じた。何より、言葉に対して責任を持つ姿勢に魅了された。大会の翌日、季語の辞典である歳時記を購入。本格的に俳句を作り始めた。俳人・堀下翔が誕生した瞬間だった。俳句を作る上で、他の俳人に認めてもらうには同人誌に所属した方が良く、知り、高校2年生の冬に同人誌「里」に所属。その後、角川俳句賞に50句を応募するなど、積極的に活動を行った。高校3年生の時に第6回石田波郷新人賞を受賞。(熊ん蜂二匹や花を同じうす。受賞した20句のうち、特に評価の高かった句は、1つの花の周りを2匹の蜂が飛んでいる何気ない情景。「派手なことを詠むのではなく、目に

### 目に映る何気ない情景を表現 俳句のために生きていく

映った風景をそのまま切り取って俳句にするのが自分の信条」と語る。地方に比べて関東は俳句の資料が多い。その関東の国公立大学で日本文学を学びたいと思い、筑波大学の比較文学類を志し、ACC入試を受験。「人間探求派」と呼ばれる俳人・中村草田男に高校時代から関心を抱き、彼の作品や評論などに触れていたことから入試の自己推薦書では中村草田男の研究について論述。合格を勝ち取った。筑波大には俳句サークルがなく、「俳句サークルを立ち上げたい」と入学当初から思っている。昨年5月には友人と共にツイッターなどで呼びかけ、持ち寄った俳句を鑑賞し評価し合う「句会」を筑波大で開催。12人が参加し、「五月」ソング水など夏の季語をテーマに、作品を持ち寄った。俳句は誰でも気軽に詠め、興味を持つ人も多いが、句会などに参加するのは敷居が高く、参加人数の少なさに結びついている。「初心者層にどう参加してもらおうか

今後の発展につながる」と語る。休日も頭の中は俳句のことで一杯だ。東京の句会や勉強会に参加し、他の俳句詠みから刺激を受けることも多い。また、多くの俳人を生み出し、俳句甲子園を主催する愛媛県松山市の「俳句のコーチの派遣事業」にも携わっており、依頼を受けて日本各地の高校で俳句の指導を行う。「指導を通して自分と同世代の人が俳句に真剣に向き合っている姿を見ることができるのが嬉しい」と語る。制作活動をする中で、出版社と関わることも多くある。編集者と関わる中で、世間で何が求められているかを考え、時代の流れに寄与する編集者の仕事に魅力を感じた。そのことがきっかけで卒業後は出版関連の仕事に就きたいという。また、「社会人として生活しながらも、俳句の制作は続けていきたい」と語る。「俳句の為にずっと生きていきたい」(橋野朝奈)日本語・日本文学化学類1年、写真も)

### 編集後記

今号から編集幹部が3年生から2年生に代わりました。分からないことや慣れない仕事ばかりですが、引退した先輩方の力を借りつつ、なんとか今月も紙面をお届けできました。1面の「つくば歳時記」では、例年より一足早い筑波山の梅の開花を報じました。本紙は例年、1月号発行の後には4月号まで空くため、梅を紙面に掲載できるのは数少ない機会です。連日の寒さ

次号は

4月7日(木)

発行予定です

### 応援部 WINS 桐華祭



会場には団員たちの力強い声が響いた(1月16日、つくばカピオホールで) = 前名裕一撮影

5面へ

### 全日本選手権



プロチームを相手に健闘する選手(1月3日、大田区総合体育館で) = 大西美雨撮影

8面へ

### 全日本インカレ



得点を決め、歓喜する選手たち(昨年12月6日、大田区総合体育館で) = 男子バレーボール部提供

9面へ

### 哲学カフェ



怒りがどう鎮まるかについて語り合う参加者(昨年12月27日、東京キャンパスで) = 徳永翼撮影

10面へ

学芸

スポーツ

スポーツ

学生生活